

ニホンアシカ *Zalophus japonicus* (Peter)

【選定理由】

かつて日本近海に広く分布し、国内での繁殖も確認されている(伊藤・中村, 1994)。1949~1975年の間に8地点13例以上の生息確認と2地点での繁殖が確認されているので絶滅と断定できない(伊藤, 1997)。先史時代には三河湾内の複数の地点で生息していたことが確認されているが、南知多町篠島では1887年頃、田原市伊良湖岬では1906年頃絶滅したと考えられる(分布の項参照)。

【形態】

体重 445.3~563.0kg(雄)、体長 2317~2484mm(雄)、1640mm(雌)、尾長 390~489mm、頭骨基底長平均(雄)313.8mm(伊藤・井上, 1993)。体毛は雄で暗褐色、雌では灰褐色をしている。吻が長く、小さな耳介をもつ。性的二型があり、雄は雌より頭蓋に大きい。後肢は体の下に曲げることができる。尾は明瞭で陰茎骨をもつ。頭蓋では眼窩間幅が比較的広く、後眼窩突起と翼蝶形骨孔がある。歯式は I3/2, C1/1, P4/4, M2/1=36、上顎第二大臼歯はしばしば欠如する(子安・織田, 2009 など)。

【分布の概要】

【県内の分布】

国内では絶滅した可能性も高く、現在は県内に分布していない。南知多町篠島神明社貝塚(渡辺, 1989)、西尾市枯木宮貝塚(縄文時代)、田原市伊川津遺跡・保美貝塚(ともに縄文時代:伊川津遺跡発掘調査団, 1988; 山崎, 2019)では遺存骨が出土している(子安・織田, 2009)。篠島では1887年頃まで生息しており(出村, 1921)、伊良湖岬(田原市渥美地域)では1859年から1906年頃まで生息していたことが確認されている(伊藤・中村, 1994)。

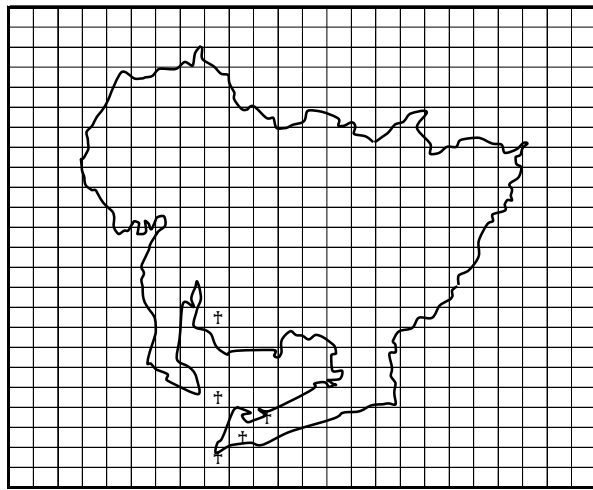
【国内の分布】

日本海側ではサハリン南部から長崎県まで、太平洋側では千島諸島、北海道から宮崎県まで分布していたが、1974年に礼文島で捕獲されたのを最後に生息情報がない(伊藤・中村, 1994)。

【世界の分布】

過去の生息地として、日本近海、カムチャッカ、サハリンにおける28地点が図示されている(Isono & Inoue, 2015)。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

繁殖地の竹島や伊豆諸島では5~6月に雄は十数頭の雌を率いたハレムを形成し、交尾を行っていた(伊藤・中村, 1994)。県沿岸域に継続して生息できる環境は残されていないと考えられる。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内では現在絶滅しており、生息していない。アシカは繁殖期に限られた繁殖場でのみ繁殖活動を行う生態的特性をもつことから、こうした場所における狩猟活動が減少の要因としてインパクトが強かったと考えられている(伊藤, 1997)。

【保全上の留意点】

1990年代、国内での絶滅は確定しておらず、保全対策として生存個体または個体群の発見と生息調査が提言されていた(伊藤, 1997)。現在IUCNのレッドリストでは絶滅とされ、国際的にも絶滅した可能性が高い。国内または周辺での生息が続いている場合、愛知県沿岸に漂着する可能性もあり、その場合は厳重な個体保護が必要とされる。また、別種とされるカルフォルニアアシカ(*Zalophus californianus*)の漂着にも注意が必要である(子安・織田, 2009)。

【特記事項】

渥美半島の先端に近い田原市保美貝塚からは数多くのニホンアシカが出土しており、伊良湖岬の個体が縄文時代に狩猟されていたことが示されている(山崎, 2019)。尾張藩主徳川宗睦に寛政元年(1789年)に献上された「張州雑誌」にニホンアシカが描かれている(内藤, 1789)。近年、県内におけるアシカの分布は伊良湖岬が著名であったが、明治年代までの篠島(出村, 1921)や知多半島近海(内藤, 1789)での生息ならびに県内で複数の遺跡からの記録は、アシカの生息地として三河湾が重要であったことを示している。

【引用文献】

- 出村 銀, 1921. 篠島史蹟, 170pp. 博信社, 名古屋市。(篠島史蹟復刻実行委員会による復刻版, 1979 による)
伊川津遺跡発掘調査団(編), 1988. 渥美町埋蔵文化財調査報告書4. 渥美町教育委員会, 愛知県渥美町.
Isono, T. & Inoue, T. 2015. *Zalophus japonicus* (Peter, 1866). The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.297-298. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
伊藤徹魯, 1997. クロアシカ. レッドデータ日本の哺乳類, pp.118-119. 文一総合出版, 東京.
伊藤徹魯・井上貴央, 1993. ニホンアシカ成獣の体長・体重の復元. 成長, 32(2): 89-97.
伊藤徹魯・中村一恵, 1994. ニホンアシカの復元にむけて(9) ニホンアシカの分布の復元. 海洋と生物, 16(5): 373-393.
子安和弘・織田銃一, 2009. アシカ. レッドデータブックあいち 2009 動物編, p.66. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
内藤東甫, 1789. 張州雑誌. 徳川宗睦. 尾張藩(現名古屋市).
渡辺 誠, 1989. 自然遺物と骨角製品. 神明社貝塚, pp.155-188. 南知多町教育委員会, 愛知県南知多町.
山崎 健, 2019. 保美貝塚. 農耕開始期の動物考古学, pp.91-93. 六一書房, 東京.

(子安和弘・織田銃一)